ふるさと見て歩き 第120回

法性寺の地蔵様のお灯籠つけ

下小瀬地区の字法性寺には、石に線彫りした子安地蔵尊の石像があり、地域の人からは「爪掻き地蔵」と呼ばれ親しまれています。地蔵尊の石仏は、市内でもいたるところに見られ、墓地の近くの六地蔵、勝軍地蔵（江畔寺）、車地蔵（北冨田）、かつて活躍した地元産婆を讃える地蔵尊もあり、その姿形は多種多様です。とくに子安地蔵尊は、如意輪観音と並んで女性の集まる講で深く信仰されてきました。今回は法性寺の子安地蔵尊、「法性寺の地蔵様」を紹介していきます。

【法性寺の地蔵様のお灯籠つけ】

法性寺の地蔵様は吉田神社の近くにあります。もとは別のところにありましたが、元の場所が県有地になった影響で平成８年に今のところに移転しました。また、地蔵様のお灯籠つけの祭日は８月23日ですが、今は23日の前の日曜日に開催されています。平成30年は８月19日に開催されました。

当日に地域総出で地蔵堂周辺の草刈をし、夕方まわり宿で当番が回ってくる世話人たちを中心に、堂の前にブルーシートを敷いて照明の準備をしていると、地域の人々が集まってきます。各々お菓子の入った包みを奉納して地蔵様を拝み、宵闇が落ちるなか、照明をたよりにブルーシートの上でしばし談笑していました。子どもがたくさんいた頃には、花火もして賑やかな集まりだったそうです。今は地蔵様の両脇にしか灯籠はありませんが、昔は周囲にも灯籠を下げていたそうです。今は電灯を使用しています。世話人が用意した煮物やお菓子、お酒、ジュースを飲食して、最後には世話人たちが餅のかわりにお菓子を撒いて、人々はそれを拾って解散します。

地蔵様を祀る地蔵講や子安講、三夜講は年々解散や休止が増えていますが、法性寺では多少の変更を加えながら、今も地域で地蔵様のお灯籠つけをしています。

▲写真１　地蔵様の前で歓談する法性寺の人々

▲写真２　奉納されたお菓子と地蔵様

【地蔵様と猫供養にこめられた願い】

写真２のように、地蔵様にはお菓子の包みと、蝋燭、両脇に灯籠が奉納されています。地蔵様にかけられている赤い帽子や前掛けは、法性寺の女性達が子どもや孫の安産祈願で奉納してきたものだそうです。

法性寺には最近までこの地蔵様を拝する子安講が毎月23日にあったそうです。地蔵様の脇にある猫供養と呼ぶＹ字の塔婆（ザクマタ、犬供養とも呼び、法性寺では現在はＹ字の塔婆を線刻した石塔が奉納されている）には「奉修子安地蔵尊家内安全身体健勝如意圓満祈修」「南無大師遍照金剛汝畜生獣菩提心」「施主法性寺　上坪　子安講中」と刻まれ、地域の家内安全と人々の健康を祈ると同時に、下線部のように動物の供養もおこなっていることがわかります。地域内での安全や健康を祈ると同時に、なぜ動物の供養もしたのでしょうか。

いわれは地域によって様々ですが、そのいわれの一つに、犬や猫は生と死の境にいる動物、あの世に通じる動物とされ、その犬や猫といった動物を供養することで、お産が軽くなることを祈って、Ｙ字の塔婆をたてたのだと言われています。地域の赤い帽子や前掛け、猫供養から、妊娠出産という生の営みが、今以上に死の世界と表裏一体だった時代の女性達が何を願っていたのかが見えてきます。

※桐原彰さんはじめ、法性寺の皆さんに取材のご協力をいただきました。

〈参考文献〉

大木卓　1975年『猫の民俗学』田畑書店
緒川郷土文化研究会　2018年「緒川の祭りや祈りの今昔」『おがわの文化』第33号　常陸大宮市緒川郷土文化研究会
菊池健策　1979年「利根川下流域の犬供養」『日本佛教』第50・51号　日本佛教研究会
栗田昇　2000年「ふるさとの信仰的年中行事について」『おがわの文化』第24号　緒川村郷土文化研究会

■問い合わせ■

文化スポーツ課
文化・スポーツグループ　☎52 - 1111（内線344）